

# 市内小学校での空間放射線量測定結果

測定値  $\mu\text{Sv}/\text{h}$  単位      測定器 Mr.Gamma A2700 型 (クリアパレス株式会社製)  
 (測定値右の\*印は地上1cmでの値)

		2024年 2月5日(月) くもりのち雪  測定高さ： 地上より1m	2023年 3月6日(月) くもりのち晴れ  測定高さ： 地上より1m	2021年 12月13日(月) 晴れ  測定高さ： 地上より1m	2011年 10月12日(水) ～14日(金) 晴れ  測定高さ： 地上より 50cm
大山 小学校	校庭中央	0.02	0.01	0.02	0.04
	体育館横側溝	0.02*	0.02*	0.03*	0.03
	体育館近くの側溝	0.03*	0.03*	0.01*	なし
比々多 小学校	校庭中央	0.02	0.02	0.02	0.03
	校庭近くの側溝	0.03*	0.03*	0.03*	0.05*
	第2校庭中央	0.03	0.02	0.02	なし
成瀬 小学校	校庭東側	0.02	0.02	0.02	0.02
	校舎近くの側溝	0.02*	0.02*	0.03*	0.09*
	体育館裏の雨樋の下	0.06*	0.06*	0.06*	0.05*
伊勢原 小学校	校庭中央	0.02	0.02	0.02	0.03
	体育館裏の雨樋の下	0.05*	0.05*	0.06*	0.07*
	体育館裏の側溝	0.04*	0.03*	0.04*	0.05
市役所 横		0.04	なし	0.05	なし

2024年度：途中から雪が舞う厳しい冷え込みでの測定だった。測定高さが同じ条件の2021年から2024年の3回の結果を見ると放射線量の値はほとんど変化していないと言える。

(雪が舞っていても半袖、半ズボンで元気に校庭で運動している小学生にこちらが元気づけられた。)

2023年度：今回の測定値を2021年度と測定値を比較すると、ほとんどの地点で同一値か、より低い値となった。すべての値が国の目標値  $0.19\mu\text{Sv}/\text{h}$  や基準値  $0.23\mu\text{Sv}/\text{h}$  に対して1桁少ない値であった。

2021年度：10年前の2011年度と今回の測定値を比較すると、測定高さが異なっ

ているが、すべての値が国の目標値  $0.19 \mu \text{Sv/h}$  や基準値  $0.23 \mu \text{Sv/h}$  に対して1桁少ない値であった。

今後1年毎位に継続してモニターしていきたい。

(目標値と基準値の考え方)

国際放射線防護委員会 (ICRP) では、一般大衆の線量限度を  $1\text{mSv/年}$  としている。

1日のうち屋外滞在時間を8時間、屋内滞在時間を16時間とし、屋内における放射線の低減係数を0.4倍とすると、時間換算で限度値は  $0.19 \mu \text{Sv/h}$  となる。

測定器で測定される放射線には、大地からの放射線 ( $0.04 \mu \text{Sv/h}$ ) が含まれているので、測定器による測定値としては、 $0.23 \mu \text{Sv/h}$  が基準値となる。

なお、ここでいう線量限度は、安全と危険の境界線ではなく、あくまで管理上の基準値として設けられているものである。